

<<ネクストイシュー>>
都市イノベーション創出に向けた
大学院生の新たなロールモデルの確立

Background:

研究と実践の両輪で活動



いわぶち ともかず

岩淵丈和(26)

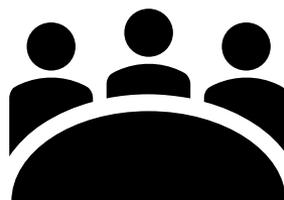
人間環境学府都市設計研究室

研究(Research)



- 都市デザイン専門
- 都市周辺におけるクリエイティブ産業の集積メカニズムが大きなテーマ
- 博士課程での研究テーマは、民間企業との共同研究プロジェクトとしても進めています。

実践(Implementation)



- 都市戦略・国際連携分野で個人事業をしてきました。
- 福岡地域戦略推進協議会のメンバーとして約3年間活動した他、個人事業として自治体や民間企業、NPO法人への支援や調査関連業務を行ってきました。

実践の実績(Accomplishment)

- ヨーロッパ5カ国6都市のイノベーション機関に関する現地調査
- 国際的スタートアップの祭典Slush(<https://slush23.com/>)で登壇
- 米国議会やヘルシンキ使節団の福岡訪問時における対応・登壇 など多数

他の実績について→



Next Issues:

研究と実践を行う、経済的に自走できている、大学院生にとってのロールモデルがない

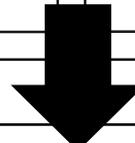
現状・課題

九州・福岡のニーズ

- ・ 産学連携への意識の高まり
- ・ 国際人材の不足
- ・ 博士人材の活躍機会の模索
- ・ イノベーションの創出

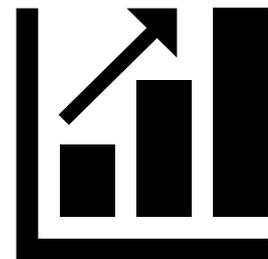
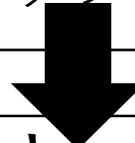
博士課程のニーズ

- ・ できるだけ長く今の研究がしたい
- ・ 社会との接点の機会が作りづらい
- ・ 大学教員以外のキャリアを選びづらい
- ・ 研究資金や生活費の工面に苦労している



個人としての取り組みの限界

- ・ 産学連携を推進できる人材になるために努力し、実績も積んできたが、世の中に仕組みが十分でない
- ・ ロールモデルやメンターがない

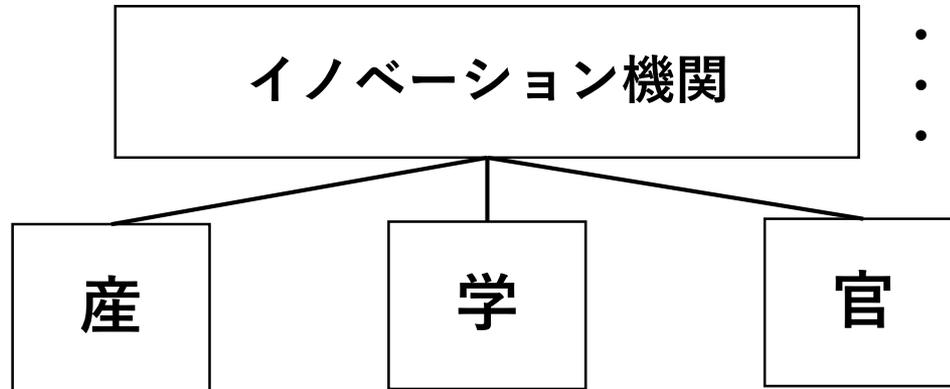


これから必要なこと

- ・ 先行事例を参照する
- ・ 成功事例をつくる
- ・ 共感する仲間をつくる
- ・ 仕組み化を進める

Case Studies:

参考にしている国内外での先行事例



- 産学連携プロジェクト
- 実証実験支援
- 国際都市連携 など

→ 今後の研究者は、
研究力に加えて、
民間企業との協力姿勢や
国際指向が重要となる

Lindholmens Science Park | Göteborg | Sweden SE

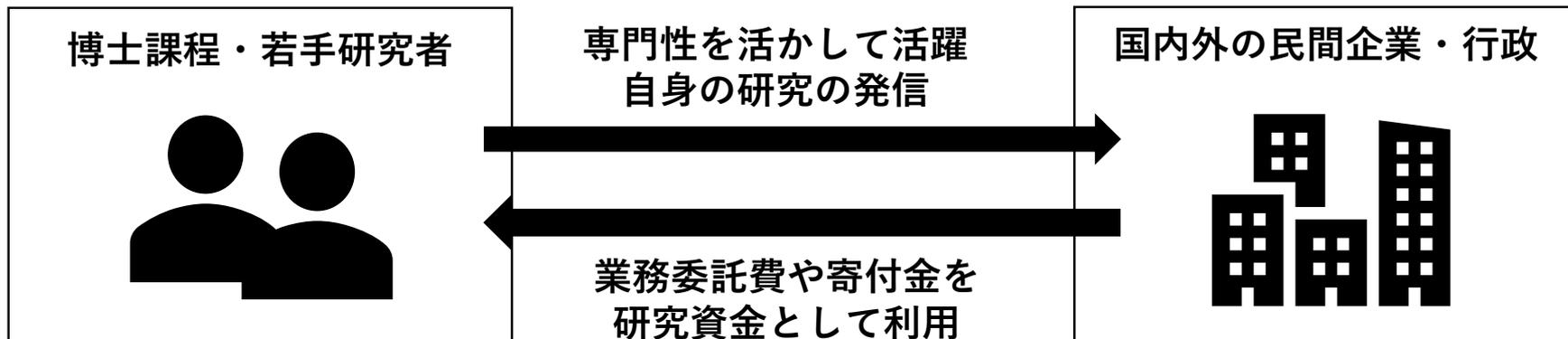
専門人材が“Enabler”として産学官民の間に入り、中立の立場(Neutral node)でイノベーションを創出するプロジェクトを推進。Triple-helix(産学官間の相互作用の促進)モデルを採用。モビリティやAIなど、プロジェクトは多岐にわたる。年間収入は 140 MSEK (約12 million€)で、フルタイムのスタッフ85名(年々規模が拡大)。

Forum Virium Helsinki | Helsinki | Finland FI

ヘルシンキ市が所有する株式会社。都市の方針は踏襲しながらも、専門人材や民間企業出身者がプロジェクトを推進。主に、イノベーション創出に向けたパイロットプログラムや産学官民連携を推進。通常時で30~40のプロジェクトを同時進行。国内に留まらず、国外との連携体制の強化も図っている。

Prospect:

～起業家でも調査研究員でもない「課題解決型研究者」の確立に向けて～



具体的なアクションプラン

① 現在の個人事業を法人化し、成果を積み重ねていく

現在の個人事業を法人化し、スピード感と規模感を大きくする。

② 国外のパートナーと連携して、福岡の国際連携を強化していく

具体的に話を進めているイギリスやフィンランドの産学連携機関との福岡・九州内での連携プロジェクトの立ち上げを実現する。

③ 後続する大学院生にとってロールモデルになる

提案者自身のような大学院生の在り方について認知と理解を広げていく。